

## 第四回 「まちづくり愛川・俳句大会」 投句状況

※「まちづくり愛川・俳句大会」実行委員会では、投句箱による投句（応募）を随時受け付けております。また平成二十九年度から、次の四期に分けて、本HP内で紹介させていただくとともに、選句委員による「奨励選句」の紹介も行っております。今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。

① 春期（二・三・四月） 奨励選句の紹介は五月

② 夏期（五・六・七月） 奨励選句の紹介は八月

③ 秋期（八・九・十月） 奨励選句の紹介は十一月

④ 冬期（十一・十二・一月） 奨励選句の紹介は二月

以上、当季雑詠とする。

※表彰式は、年に一度、二月下旬の午後開催予定です。（決定しだい、後日明記します。）

「奨励選句」された句も対象になります（入選は、一人につき一句）。

※ここで紹介させていただく句は、平成三十一年度分における選句対象となります。

☆印は、委員による「奨励選句」。尚、選者により、添削されている箇所がある場合もあります。どうぞ、ご了承願います。また諸事情により、小・中学生の記名については未記載とさせていただきます。併せてご理解ください。

〈冬期〉（投句期間 平成三十年十一月～平成三十一年一月）

### 【小学生の部】

・夏のあとこうようになって雪がふる      ・秋の山黄色やみどりこうようだ

### 【中学生の部】（投句無し）

### 【一般の部】

☆・碧空や紅淡き檀の実      （愛川町田代 富田 茂子 様）

・一本の野菊確かに畔に咲く      （ 同右 ）

・たまご抱く雌鳥に暮秋の日射しかな      （ 同右 ）

・いま一つ色づきまつか宮ヶ瀬湖      （八王子市めじろ台 黒沢 斉 様）

・葉を落とし最早芽を持つコブシかな      （愛川町半原 酔人 ）

・青天やいろは紅葉のあでやかさ

( 同右 )

☆・北風や吹き上げる葉のすさまじき

(厚木市旭町 常三朗 様)

・神楽舞う神代の錦宮ケ瀬に

(町田市森野 青木 一真 様)

・古民家や色鮮やかに菊花展

(愛川町中津 高橋 貞夫 様)

・朝日和あの日も同じやぶ椿

(愛川町中津 市川 正子 様)

・蟬梅の香りのむこう散歩みち

(厚木市下川入 飯田 茂 様)

・カサコソと落葉踏む音きじばとの

( 同右 )

〈春期〉(投句期間 平成三十一年二月～ 同年四月)

【小学生の部】

・冬キャンプ寝袋入ってポカポカだ

・冬キャンプ寝袋入ってミノムシだ

・しまいがこわくみえたよあかいなあ

・マンモスのもけいの大きさかんげきだ

・ダムを見て人間の小ささ感じたよ

・ダムを見てダムのすごさを感じたよ

・愛川の自然に触れていやされる

【中学生の部】 (投句無し)

【一般の部】

・背中押す光の春や散歩みち

(厚木市下川入 飯田 茂 様)

・春の空飛行機雲も太くなり

( 同右 )

・かわせみを待つカメラマンコート脱ぎ

( 同右 )

・書き留めるメモの上にも春の風

( 同右 )

・水ぬるみどりにいたのか雑魚光る

( 同右 )

・雨の道すみれがうつむきお出迎え

( 同右 )

(※以上、飯田氏の六句は、二月～四月にかけて投句でしたので、ここにまとめて掲載。)

・山眠りせせらぎだけの昼下がり

(愛川町中津 村井 庄三 様)

- ・置き水や手を切るほどに冷たけり ( 同右 )
- ・初雪や赤い鼻緒が二の字書く ( 同右 )
- ・床の間の花一輪や影映し ( 同右 )
- ・ひく波や浜辺に残る桜貝 ( 同右 )
- ・長閑なり打つ音だけの日本の間 ( 同右 )

(以上、村井氏の六句は、3月末〜4月の投句でしたので、ここにまとめて掲載。)

- ・氷雨中静まり返る資料館 (愛川町半原 富永 規子 様)

- ・瀬音<sup>はせ</sup>烈し<sup>たけ</sup>杣道<sup>そうみち</sup>よぎる離れ猿 ( 同右 )

- ☆臘梅<sup>ろうばい</sup>や猿の横切<sup>よこぎり</sup>る杣<sup>そう</sup>の道 ( 同右 )

- ・朽<sup>く</sup>ちかけし観音御堂青嵐 ( 同右 )

- ・罫<sup>か</sup>りの迎<sup>むか</sup>えうれしき藤野駅 ( 同右 )

- ・今年竹厨<sup>たけぐら</sup>の窓に露持ちちて ( 同右 )

- ・異教徒も混じる田中の檀家総会 ( 同右 )

- ・澤<sup>さわ</sup>海<sup>うみ</sup>は田の雑草と知る日かな ( 同右 )

- ・吟行の翁背に散る山桜 ( 同右 )

- ・筥<sup>はこ</sup>を握る子の腕のたくましき ( 同右 )

- ・歓送迎宴<sup>かんそうようえん</sup>たけなわや青嵐 ( 同右 )

(以上、富永氏の十一句は、2月末〜3月の投句でしたので、ここにまとめて掲載。)

- ・気をつけるわたしのパンをトンビくう (小田原市南鴨宮 渡辺 真一郎様)

- ・桜さく私のパンをトンビくう ( 同右 )

- ・食べられた春のトンビにフランスパン ( 同右 )

- ・てんぐがねいっばいいいたんだてんぐがね (横浜市 無記名)

- ・風やんで噴水の影棒になる (厚木市妻田東 北村 純一様)

- ・陽炎に躡くほどの平和かな ( 同右 )

- ・夏暖簾掛けて女将の顔になる ( 同右 )
- ・気に入らぬ風もあろうに花吹雪 ( 同右 )
- ・祖母がゐて火種のやうな春炬燵 ( 同右 )
- ☆競り合つて稚鮎は銀の粒になる ( 同右 )
- ・花の雲八菅山まで浮かせをり ( 同右 )
- ・山門の仁王に届く花吹雪 ( 同右 )
- ・しばらくは桜にこの世まかせたり ( 同右 )
- ・にぎやかに風の中なる桜かな ( 同右 )
- ・遠きより霞みて花の八菅山 ( 同右 )

(以上、北村氏の十一句は、三月複数日にわたる投句でしたので、ここにまとめて掲載。)

・新緑が桜ふぶきにもえ上る (川崎市麻生区 鈴木孝 様)

〈夏期〉(投句期間 令和元年五月～ 同年七月)

【小学生の部】

・きれいだなそらにうかぶよこいのぼり ・やまのなかぼいすてしないやさしいね

【中学生の部】 ・秋の葉が風に散り浮くわずかな間 (※五月の投句なのでここに記載)

【一般の部】

- ・自然のこけ緑にさそわれ風に立つ (横浜市港南区 ツリタニ マユミ 様)
- ・朴の花咲いて気付かず愛の川 (厚木市鳶尾 鈴木 ひろみ 様)
- ・子供の日鳥のさえずりかき消され ( 同 右 )
- ・からだより大きな声の雀の子 (厚木市妻田東 北村 純一 様)
- ・揚雲雀空にさざなみたててゐる ( 同 右 )
- ・背なの児に急かれて走る風車 ( 同 右 )
- ・畦塗つて村の構図を繕ひぬ ( 同 右 )
- ・花菖蒲切られて風を失ひぬ ( 同 右 )
- ・店先に新茶入荷の女文字 ( 同 右 )

・睡蓮の水面に映る傘の色 ( ) 同 右 ( )

☆梅漬けて家宝のやうな石のせる ( ) 同 右 ( )

・老いてなお短冊に夢星祭り ( ) 同 右 ( )

・青鷺が脚を伸ばして滑り込む ( ) 同 右 ( )

・夏山に湧き水の音ふくらみぬ ( ) 同 右 ( )

・羅をゆるやかに着て法話聴く ( ) 同 右 ( )

・叩かれて返事しそうな大西瓜 ( ) 同 右 ( )

(※以上、北村氏の句は、五月〜七月の投句となるため、ここにまとめて記載しています。)

・トーストにベーコンエッグ春の夢 (愛川町中津 森田 京子 様)

☆ふるさとを離れしあの日葱坊主 ( ) 同 右 ( )

・鉢植えの紅二、三輪放春花 ( ) 同 右 ( )

(※以上、森田氏の三句は5月の投句でしたので、ここに記載しています。)

・山映す田んぼの空のアメンボウ (厚木市下川入 飯田 茂 様)

・山の峰雲のテントの梅雨の朝 ( ) 同 右 ( )

・公園へ続く急坂夏落葉 (清川村煤ヶ谷 柳川 美津江 様)

・大き滝細滝落つる音を聞く ( ) 同 右 ( )

・願い事結んで揺れる七夕竹 ( ) 同 右 ( )

・せみしぐれ朝からばんまでコンサート (相模原市中央区 馬渡 心菜 様)

・海の日に梅雨が明けないさびしいよ (相模原市中央区 馬渡 香織 様)

・白木蓮ほのかに纏ふ空の色 (愛川町春日台 衛藤 佳也 様)

☆青田風水道路の一直線 ( ) 同 右 ( )

・弓引きの蝉も誉めるる弦音かな (愛川町角田 諏訪部 和成 様)

(※他に、3句の投句がありましたが、無季句のため、無掲載とさせていただきます。)